

# こだま会第29回定期総会議案

## こだま会報100号記念号

### 目次

- ・ 役員 の 公 募 に つ い て  
／ 総 会 案 内 …… ①
- ・ 総 会 議 案 …… ②～⑤  
2012年度経過報告／  
同会計報告／同監査  
報告／2013年度方針  
案／規約改正案／新  
役員体制案／同予算  
案
- ・ こだま会報100号特集  
…………… ⑥～⑨
- ・ 原 発 被 災 自 治 体 の 避  
難 地 を 訪 ね て …… ⑩
- ・ 湯 河 原 梅 林 散 歩 ／ 会  
員 の 声 ／ 予 告 …… ⑪
- ・ 楽 しい 料 理 教 室 ／ こ だ  
ま 俳 壇 ／ 絵 手 紙 …… ⑫



水彩スケッチ 「神奈川県庁舎」 河合幹彦さんの作品

### こだま会役員 の 公 募 に つ い て

こだま会役員選考委員会委員長 青沼慶祐

当会の役員は、会則12条により総会で選出することになっていますが、恒例により幹事会のもとに役員選考委員会を設置し、役員になっていただける方を公募したうえで、総会に提案いたします。下記の要領に基づいて、積極的にご応募下さるようお願いいたします。

#### 記

- 1、応募期間 5月16日(木)～5月27日(月)
- 2、応募方法 下記の内容を記載のうえ、FAXまたはEメールで応募して下さい。  
①氏名 ②住所 ③連絡先(電話・FAX・Eメール)
- 3、応募先 「こだま会役員選考委員会」  
FAX番号 045 (212) 3178  
Eメール kodama@kensyokurou.ne.jp
- 4、任期 2年(2013年総会～2015年総会)
- 5、役員 の 人 数 現 行 の 体 制 を 基 準。(代 表 幹 事 以 下 22 人 ・ 監 査 2 人)
- 6、幹事会 年6回程度(年4回の会報発送作業を幹事会の前に行っています)。日常業務は事務局を中心に行っていますが、役員は相互に協力し、会の業務を分担、執行します。

神奈川県  
職 労 連

## 退職者 第29回定期総会のご案内

**と き** 6月22日(土) 9時30分受付 10時開会～12時  
**と ころ** かながわ労働プラザ (Lプラザ：横浜市中区寿町1-4 ☎045 (633) 5413 JR根岸線「石川町駅」徒歩7分)

みなさん、いかがお過ごしですか。

第29回定期総会を開催します。この1年をふりかえり、新しい運動方針をみんなで作っていきましょう。

### 総会終了後は懇親会で交流

総会終了後12時15分から約2時間、かながわ労働プラザ9階レストラン「味彩」で懇親会を開きます。軽食をとりながら交流を深め、楽しいひとときをすごしましょう(会費2000円)。

なお、総会・懇親会会場が昨年と変わりました。お間違いのないようにしてください。出欠は同封の葉書で、6月10日(月)必着でお願いします。



# 神奈川県職労連 退職者こだま会 第29回定期総会議案

〈第1号議案〉

## 2012年度経過・会計報告

### I 1年の1年間の活動の特徴

○文化・レクリエーション活動では、幹事会企画として、「小出川ミニハイキング」など三つの企画を実施。神奈川県自治労連退職者会主催の「ふれあい手作り文化祭」では、出品者・出品数とも増え、演芸の部でも昨年以上を上回る参加がありました。趣味の会は、昨年同様五つの会が活動していますが、「歴史教室」の会は途中から休止状態になっており、講師の確保が課題となっています。

○『こだま会報』は今年の5月15日号で100号を迎えました。7人の編集体制で年4回発行し、会員をつなぐ柱として奮闘しています。また、ホームページの改善を図ってきました。

○高齢期運動や平和とくらし、民主主義を守るとりくみでは、高齢者大会や各種集会、県職員九条の会の運動に参加しました。また各種の署名にとりくみました。

○県職労連公務一般労組神奈川フィリ分会への不当労働行為・解雇撤回問題では、「杉本さん・布施木さん

の解雇を撤回させ、神奈フィルをよくする会」へ団体加盟をし、署名や諸行動にとりくみました。

○県民サービス切り捨て・職員犠牲の「神奈川臨調」では、幹事会で学習会をし、『会報』でアピール、署名要請などへの協力活動を行いました。

○会員拡大では、県職労連の協力のもとに、退職者説明会や保険加入などを通じ、昨年を上回る37人の新規加入者を迎えました。会員数は3月末日現在1342人と、昨年同期を13人上回っています。

○昨年の総会で決めた「長寿祝い制度の新設」に伴う準備を進め、今年度4月1日から新制度がスタート。

### II 活動報告

1 趣味を生かした文化・レク活動

①こだま会幹事会企画

「小出川の彼岸花観賞ミニハイク」(9月29日・12人) / 「ありがとう大平荘」(11月29日・30日・17人) / 「湯河原梅林・梅見散歩」(3月1日・10人)

②趣味の会の活動

〈歴史教室〉

「東京・港区の文化財―泉岳寺・増上寺・愛宕神社」散策(6月14日・

14人)

〈俳句サークル・こだま句会〉

会員17人。講師は太田土男先生(俳人協会)。定例会は毎月第2木曜日。吟行は「芭蕉の足跡を訪ねて―東京の清澄・臨川寺」(11月15日・13人)、「横浜三溪園」(12月13日・5人)。こだま会企画に合わせた吟行は「小出川の彼岸花観賞ミニハイク」(9月29日・4人)、「ありがとう大平荘」(11月29日・30日・5人)、「湯河原梅林・梅見散歩」(3月1日・4人)。他句会と合同で「二宮吾妻山・徳富蘇峰記念館観梅」(2月11日・4人)などを実施。「手作り文化祭」へは短冊17作品を出品しました。

〈囲碁同好会〉

毎月第1日曜日、藤沢・囲碁サロンで実施しています。

〈食文化を楽しむ会・薬膳料理〉

「夏をのりきる薬膳料理」(7月26日・6人)。「風邪予防の薬膳料理」(12月6日・9人)。

〈楽しい料理教室〉

「鱈の南蛮漬け」(1月26日・5人)。  
 ③第18回ふれあい手作り文化祭(神奈川県自治労連退職者会主催)

10月27日、横浜市従会館で開催。当会は出品の部31人(絵画4人、水墨画1人、写真2人、俳句17人、絵手紙3人、葉書絵2人、吊し雛1人、紙工作1人)、演芸の部8人(カラ

オケ、フラダンス)が参加。

2 高齢期運動など生活とくらし・平和を守るとりくみ

①全国自治体退職者連絡会  
 第15回定期総会(8月25日・愛媛県松山市)に2人の代表が参加。当会は、「神奈川フィルの不当労働行為・解雇撤回闘争への支援」と「神奈川臨調問題」を報告。役員は、事務局次長として派遣。

②神奈川自治労連退職者会

第21回定期総会(10月17日・横浜市従会館)では、「生活保護バッシング」「年金制度の統合問題」「最低年金制度」などを討論。当会からは役員(会長/事務局次長/幹事2人/監査)を派遣。

③高齢期運動

〈神奈川高齢期運動連絡会総会〉  
 2月22日に横浜で開催。社会保障改善の動きに反対し、高齢期運動を強める等の方針が確認されました。当会から幹事を1人派遣。

〈日本高齢者大会〉

第26回日本高齢者大会(10月10日・11日・香川県高松市)に一人が参加。民・自・公「三党合意」の「社会保障改革推進法」に議論が集中。「消費税に頼らない社会保障の充実は可能」と意思統一しました。

④神奈川県職員九条の会

県職員九条の会7周年記念「平和

### 2012 (平成24) 年度一般会計報告

(2012年 4月 1日～2013年 3月31日)

(単位:円)

収 入			
項 目	予算額	決算額	摘 要
年会費	252,000	249,000	3,000円×83人
終身会費	800,000	925,000	25,000×37人
県職労連交付金	685,000	616,500	
共済助成費	1,200,000	1,301,449	全労済・アメリカンファミリー
雑収入	50,000	32,355	総会祝金他
繰入金	0	0	
寄付金	0	20,000	
前年度繰越金	1,358,446	1,358,446	
合 計	4,345,446	4,502,750	

(単位:円)

支 出			
項 目	予算額	決算額	摘 要
事務局費	600,000	447,810	
行 動 費	300,000	153,510	自治労連関連・神奈川フィル争議・高齢者大会等
会 報 費	1,100,000	1,006,510	
総 会 費	250,000	216,574	
会 議 費	500,000	366,380	
通 信 費	100,000	61,520	
弔 慰 金	100,000	115,000	5000円×23人
負 担 金	50,000	50,000	神奈川自治労連退職者連絡会
繰 出 金	1,125,000	1,250,000	積立金会計への繰出
予 備 費	220,446	0	
次年度繰越金	0	835,446	
合 計	4,345,446	4,502,750	

### 2012 (平成24) 年度積立金会計報告

(2012年 4月 1日～2013年 3月31日)

(単位:円)

収 入				
項 目	予算額	決算額	摘 要	
前年度繰越金	15,793,695	15,793,695		
本年度収入	1,130,000	1,252,724		
内訳	積立金	(1,125,000)	(1,250,000)	一般会計から
	利息	(5,000)	(2,724)	
合 計	16,923,695	17,046,419		

(単位:円)

支 出			
項 目	予算額	決算額	摘 要
本年度支出	0	0	
次年度繰越金	16,923,695	17,046,419	
合 計	16,923,695	17,046,419	

### 会計監査報告

#### 会計監査報告

2013年 4月 9日

神奈川県職労連退職者こだま会  
代表幹事 加瀬 文隆 殿

2013年 4月 9日、こだま会事務室において2012年度一般会計及び2012年度積立金会計について、それぞれの会計帳簿、収支証拠書類、預金通帳等の監査を実施したところ、適正に執行されていることを認めます。

会計監査 木村武子 ㊟  
会計監査 辻村 博 ㊟

#### 1 会員拡大のとりくみ

#### III 会員の加入状況と会の運営

・「かながわ県民センターをなくさないで」署名(県議会議長宛150筆、知事宛190筆)。  
・「杉本正さん・布施木憲次さんの解雇撤回と神奈川フィルハーモニー管弦楽団の正常運営を求める要請署名」(122筆)。

2013年3月末現在の会員数は1342人。2012年度の加入者は37人。加入の働きかけは、県退職者説明会5回(2月上旬～3月下旬)と県職労各支部の「退職者慰労の集い」で実施。また、火災共済の更新手続きの際、加入資料を同封して加入を呼びかけました。

#### 5 会の運営

幹事会を7回、四役事務局会議を毎月1回、事務作業は毎週火曜日に集中して進めました。

全労済火災共済は49万8926口(2011:62012・5)、アメリカンファミリー保険加入状況は17件。

#### 3 全労済火災共済・アメリカンファミリー保険加入状況

昨年年度総会で決定した「長寿祝い制度の新設と弔慰金制度の廃止」にもとづき2013年4月1日から新制度に移行しました(今年度の対象者は80歳以上311人)。

#### 4 「長寿祝い制度」の発足

ホームページは『会報』のバックナンバや行事案内などをアップし、即時性を生かした情報提供をすすめ、充実に努めました。

#### 2 『会報』とホームページの充実

年金・医療などの情報や、趣味活動、高齢期運動などを掲載。年4回、8から16ページで発行。会員が多く登場する紙面をめざしました。

「かながわ県民センターをなくさないで」署名(県議会議長宛150筆、知事宛190筆)。

「杉本正さん・布施木憲次さんの解雇撤回と神奈川フィルハーモニー管弦楽団の正常運営を求める要請署名」(122筆)。

「安全・安心の医療・介護実現のため夜勤改善・大幅増員をもとめる国会請願署名(医労連)」(104通。1通あたり4～5名の署名で約500筆)。

「かながわ県民センターをなくさないで」署名(県議会議長宛150筆、知事宛190筆)。

「安全・安心の医療・介護実現のため夜勤改善・大幅増員をもとめる国会請願署名(医労連)」(104通。1通あたり4～5名の署名で約500筆)。

「かながわ県民センターをなくさないで」の署名や、「神奈川県立図書館はなくていいの?」のチラシを会員に届けるなど、会員に協力を呼びかけました。

の集い」(12月1日・開港記念会館)では小森陽一さんの講演「憲法をめぐる情勢と命を守る国民の運動」を学び、また、九条かながわの会主催の「輝け憲法今こそ九条inぎま」(ハーモニーホール座間・12月8日)などへの参加を呼びかけました。

幹事会(7月17日)で団体加盟を決め、役員として代表幹事と幹事を派遣。「サンクス・コンサート」(12月12日・開港記念会館)や県労委や地裁・高裁にむけた宣伝・署名、傍聴などに参加しました。

⑤ 杉本さん・布施木さんの解雇を撤回させ、神奈フィルをよくする会  
⑥ 神奈川臨調問題  
幹事会で学習会をし、『会報』で問題をアピール。「かながわ県民セ

ンターをなくさないで」の署名や、「神奈川県立図書館はなくていいの?」のチラシを会員に届けるなど、会員に協力を呼びかけました。

第3号議案 2013年度予算案

2013(平成25)年度 一般会計予算(案)

(2013年4月1日~2014年3月31日)

(単位:円)

収 入			支 出		
項 目	予算額	摘 要	項 目	予算額	摘 要
年 会 費	255,000	3,000円×85人	事 務 局 費	700,000	パソコン等購入、事務運営費など
終 身 会 費	925,000	@25,000円×37人	行 動 費	250,000	高齢者大会・自治絡 労連退職者会等
県職労連交付金	616,500		会 報 費	1,150,000	会報発行・会報100号ま での製本(合本)など
共 済 助 成 費	1,300,000	全労済・アメリカ ンファミリー	総 会 費	250,000	
雑 収 入	40,000	総会祝金等	会 議 費	500,000	幹事会・事務局会議・ 諸会議等
繰 入 金	1,250,000	長寿祝い金等	通 信 費	100,000	
寄 付 金	0		長 寿 祝 い 金 等	1,000,000	過年度弔慰金支払 いを含む
前 年 度 繰 越 金	835,446		負 担 金	65,000	神奈川県自治労連退 職者会、神奈フィル を良くする会等
合 計	5,221,946		繰 出 金	925,000	積立金会計へ(終 身会費収入分)
			予 備 費	281,946	予算総額の5.4%
			合 計	5,221,946	

2013(平成25)年度積立金会計予算(案)

(2013年4月1日~2014年3月31日)

(単位:円)

収 入			支 出		
項 目	予算額	摘 要	項 目	予算額	摘 要
前 年 度 繰 越 金	17,046,419		本 年 度 支 出	1,250,000	一般会計、長寿 祝金経費等
本 年 度 収 入	928,000		次 年 度 繰 越 金	16,724,419	
内 訳			合 計	17,974,419	
積立金	(925,000)	一般会計から、 終身会費収入分			
利 息	(3,000)				
合 計	17,974,419				

〈第2号議案〉  
2013年度活動方針(案)

I 私たちをとりまく情勢

1 国民のくらしと国政の動き

○昨年12月に誕生した安倍政権は、30数万人が避難生活を余儀なくされ、処理方法もないまま増大する放射能汚染水などの原発事故の深刻な実態を顧みず、原発再稼働に踏み切

ろうとしています。また、TPPへの交渉参加表明や辺野古の埋立て申請、さらに、憲法改正のための「96条(発議要件)改正」を維新の会やみんなの党などと進めようとしています。

○また、デフレ脱却・物価上昇2%のインフレ目標を掲げた経済政策のもと、大幅な金融緩和などを推進しています。しかし、GDPの6割を占める家計消費は、この10年間で6

兆円以上も落ち込んでいます。政府も企業の内部留保はき出しに言及せざるを得なくなっています。賃金や年金の引き上げ、社会保障充実による国民生活改善・内需の拡大なしには、デフレ脱却などありえません。

○公務員を巡っては、退職金の削減に加え、地方交付税削減をテコに、この7月からの国家公務員に準じた賃金カットを地方公務員に迫っています。また、自民党は都道府県をな

2 神奈川県政をめぐる動き

○黒岩知事は、県民負担増の露払いとして職員の給与カットや職員の福利厚生への切り込みを進めてきました。退職手当も経過措置が終わる2014年7月1日時点で約400万円の減額、来年度定年退職者からは無年金期間が生じるなど老後に対する不安は高まっており、高齢期の社会保障充実のとりくみが増々重要になってきています。

○昨年9月、県は緊急財政対策案を公表し、県有施設、補助金・負担金、人件費などに聖域を設けず徹底的に見直しをかけています。かながわ県民センターや県立図書館、県営住宅などの移譲・廃止・集約化に反対する県民運動や市町村議会の補助金削

減反対の声に押され一定の譲歩がなされたものの、見直しのロードマップを示し、さらなる廃止・見直しを進めようとしています。

○2013年度当初予算では、緊急財政対策による財政確保額を400億円(人件費抑制260億円、施策・事業見直し95億円、補助金見直し30億円など)とし、まさに職員・県民犠牲の予算編成です。また退職手当200億円を計上留保する手法で今年度中のさらなる人件費削減をねらっています。その一方で、「経済のエンジンを回す」として国の国土強靱化政策の大型公共事業や京浜臨海部ライフイノベーション推進、ロボット産業特区など、国の産業政策の受け皿の役割を強めています。

II 活動の基本方向

- 1 県政で永年、経験と知識を發揮してきた人たちが「こだま会」の運動を支え、趣味を生かした文化・レクリエーションなどの活動にとりくんでいます。仲間づくりや交流の場をさらにふやし、楽しく実りある活動にしていきます。
- 2 高齢者の安心できるくらしのために、保健・医療・福祉・年金制度を充実する活動を進めます。
- 3 「神奈川県職員九条の会」等と連携し、憲法9条擁護の運動を進

めまます。

4 有利で安心な火災共済・自動車共済・がん保険などの福利厚生事業や、法律・年金・税金・介護保険など、相談活動を進めます。その際、会員の専門性を生かすなど充実させます。

5 神奈川県職労連と協力・連携をし、全国自治体退職者連絡会や民主団体と協力して、いのちとくらし、平和と民主主義を守る運動に参加します。  
6 退職者への「こだま会」加入を呼びかけ、会員拡大を強めます。

### Ⅲ 活動計画

1 健康講座など  
健康で自分らしく生きいきと過ごせるようにするために、「健康講座」や健康チェック等を追及します。

2 「趣味の会」などの活動  
会員の趣味を生かした活動を支援し、充実を図ります。こだま会企画の、みんなで楽しめる集いやお花見会、みかん狩りなどを計画します。  
会員の提案を積極的に受け止め、仲間づくり・絆の輪の広がり支援します。

3 保健・医療・福祉・年金制度など  
どの充実と県民主体の自治体へ保健、医療、福祉、年金制度の充実や、消費税増税反対、TPP（環

太平洋経済連携協定）推進反対、脱原発などの国民的な課題では、学習会や署名運動などを進めます。

県有施設の切り捨てなどの動きに対し、県職労連や会員のそれぞれの地域や団体等でのとりくみに参加・支援します。また、「神奈川県を守りよくする会」に参加しとりくみ

4 「手づくり文化祭」への参加  
神奈川県自治労連退職者会主催の「手づくり文化祭」に多くの会員が出品し、参加できるように『会報』や『ホームページ』等で周知し、他の退職者会との交流を深めます。

5 『会報』『ホームページ』の充実  
『こだま会報』（5月・8月・11月・2月発行）は、会員をつなぐ情報源です。会員が主人公の紙面を追及します。日常的には『ホームページ』の役割が重要です。身近な話題や写真の投稿などで充実を図り、インターネットの活用も図ります。『会報』100号記念事業として、100号を増ページで発行。また100号までを製本（合本）します。

6 会員拡大をめざして  
神奈川県職労連（県職労・県病院労組・県公務一般労組）と連携し、早期退職者、定年退職者、再任用（再雇用）退職者等にきめ細かく対応し、加入を呼びかけます。

### 〈第4号議案〉

#### 規約改正（案）

#### 〈改正の趣旨〉

アンダーラインの部分が、削除または改正箇所です。

○第5条：会員としての資格は死亡した本人の資格であり、配偶者

が継承する理由がない。  
○第7条：社会通念に従い改正。  
○第8条・9条：現状に合わせて改正。  
○第13条：監査・相談役の職務を明確にした。  
○規約改正施行日：2013年6月22日

条文	現行	改正案
(会員の資格) 5条	本会の会員は神奈川県職員であった者及び県職労連組合員であった者は本会に加入できる。 <b>なお、本人が死亡したときは、その配偶者が会員になることが出来る。</b> このほか、本会に入会を希望する者は、幹事会の承認を受けるものとする。	本会の会員は神奈川県職員であった者及び県職労連組合員であった者は本会に加入できる。(現行の下線部分削除)このほか、本会に入会を希望する者は、幹事会の承認を受けるものとする。
(退会等) 7条	会員が死亡したとき、または会費を2年以上滞納したときは退会したものとみなす。	会員が死亡したとき、または会費を1年以上滞納したときは退会したものとみなす。
(役員) 8条	3 事務局長 1名 (必要に応じ事務局次長をおくことが出来る) 4 幹事 若干名 (県職労連役員1名を加える) 5 監査	3 事務局長 1名 4 事務局次長 若干名 5 幹事 若干名 (県職労連役員1名を加える) 6 監査
(役員の職務) 9条	3 事務局長は事務局を統括する。 4 役員は幹事会を構成し、重要事項を審議するほか会務を執行する。	3 事務局長は事務局を統括する。 4 事務局次長は事務局長を補佐する。 5 役員は幹事会を構成し、重要事項を審議するほか会務を執行する。
(幹事会) 13条	幹事会は幹事2分の1(委任状を含む)以上の出席で次の事項を審議する。	幹事会は幹事2分の1(委任状を含む)以上の出席で次の事項を審議する。 <b>なお、監査及び相談役はオブザーバー参加とする。</b>
規約改正施行日		2013年6月22日

### 役員改選について(案)

#### 〈第5号議案〉

総会当日に配布します。



# 会員の顔のみえる『会報』をめざして

100号を  
ふりかえる

『こだま会報』は1985(昭和60)年6月に創刊され、今年の5月、100号を迎えました。その間28年、『会報』は私たちにとってどんなものであったか、振り返ってみましょう。

## 継続は力なり

神奈川県職労連退職者こだま会(以下こだま会と略)が創立されたのは1985年3月、「神奈川県職労退職者厚生会」として会員21人で発足しました。『会報』は、会員同士をつなぎ励ましあう交流の情報、そして生活にかかわる年金・保険・共済・税金等の情報を提供する目的で創刊されました。

題字は『神奈川県職労退職者厚生会報』でした。発足当時21人の会員が、現在は1342人。『会報』は

100号に達し、名実ともに、「継続は力なり」を如実に示していると  
思います。

## 成長の証し

創刊号はタブロイド判2ページ、新聞のスタイルでした。「仲間と共に退職後も安心できる生活を」と力強く呼びかける活力のある紙面です。

3号(1986年12月)からB5判で縦書き約8ページと充実し、年3回(2、6、9月)で刊行されました。1988(昭和63)年に会名が「神奈川県職労退職者こだま会」と

## 現役のことで精一杯なかで誕生した「こだま会」

「退職者に冷たくしないで、火災保険ぐらい引き続き面倒見てくれよ」。県税の本田安親さんなどから強く要望されて



県職労はそれまで

現役主義と言うか、正直にいえば手一杯で、とても退職者に力を割けない状況でしたが、思い切って作ろうと話し合いを進めました。

1985年(昭和60)2月28日、県職労臨時大会で第4号議案「退職者会の設立について」が可決成立。同年3月15日、新庁舎12階の小食堂

改称されたのに伴って、10号から題字は『神奈川県職労連退職者こだま会報』と変わりました。

創刊当初には秦謙次郎代表のもとに4つの委員会が組織されて、そのうち広報渉外委員会が『会報』づくりを担当。児玉欣一郎さんがその中心だったと思われます。この委員会



退職者会の設立を伝える県職労新聞(1985年)

で発会式が行われ、秦謙治郎さん、本田安親さんほか約20人を中心に、火災共済・自動車共済などの引き続く利用、医療・年金など退職者の生活と権利を守る運動、会員の親睦、会報の発行などをめざし、「こだま会」がスタートしたのです。(鈴木 三郎)

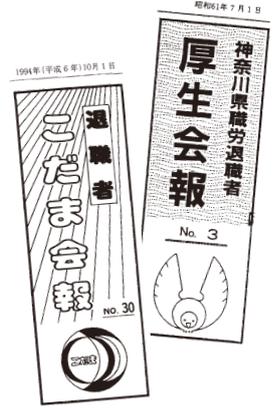
制は一時停滞、鈴木志げ子代表の1995年に広報委員会として再編され、7、8人の委員で、集団編集で刊行されています。その後、会報編集委員会として引き続き現在に至っています。

タブロイド判からB5判に変わった3号の題字のデザインは会員公募の結果、塩田智之さんの作が採用されました。会員の声がかたまとなり、互いに響きあうことを現わしています。この形は72号から横書きに変わりました。この頃から紙の色も、年度別に変えて分かりやすく便利にしてあります。

刊行頻度が当初の3回から年4回になったのは49号(2000年)からです。6、8、10、2月の不定期刊で、6月は総会号、8月は総会報告号、10月は通常号、2月は新退職者向けです。刊行の時期や印刷の関係もあって、このようになったのでした。現在は年4回の定期刊(5、8、11、2月)になっています。大きさがB5判からA4判に変わったのは80号(2008年)からで、活字を大きくし、「読みやすくなった」と喜ばれました。

## 付録もあつた

また付録として何回か特集が組まれています。『入会の誘い』や、退



職予定者に喜ばれたものとして、『退職後の年金・健康保険の手続きにあなとも挑戦しましょう』(96年保存版)が、34号とともに刊行。この改定版が、『退職後知っておきたい知識と手続き——年金・医療保険・雇用保険』(99年度保存版)で、44号(1999年)、47号(2000年)、51号(2001年)、59号(2003年)と続きました。

**変化の証し——会員の顔の見える『会報』を**

**100号達成に感慨、会員のよりどころとなる『会報』をみんなで**

『こだま会報』100号達成に、私は新たな感慨を覚えていきます。



季刊発行であり、発足前半は年3回の期間もあっただけに、会の歴史の重みを感じます。

紙面を飾った記事は、総会案内・報告にはじまり、歴史教室・俳句教室・料理教室など、サークル活動の様子や予告など。ほかには暮らしに役立つ健康・保健・介護・税金・経済・文化等の情報が盛り込まれています。退職者会同士の連帯の情報や、憲法を守る「九条の会」のことも掲載しました。

眼に付く記事として、『こだま会年金研究講座』があります。退職者のための年金情報と銘うって、1回(10号、1988年)から18回(1995年)まで、毎回2〜3ページの連載。約6年も続いたのは驚きです。



バースあおば訪問記(1998年1月)

か、とにかく外へ飛び出して会員の様子を積極的に取材しました。『コスモス・センター訪問記』37号(1997年)は、佐藤七夫さん(元県職労委員長)の老人福祉施設の開業と経営の姿を見ることができました。

『会報』は全国自治体退職者連絡会でも、情報の発信、会員との結びつきのあり方、編集体制の充実など、総会時には必ず賞賛の声が寄せられています。

これからも『会報』が会員相互の寄りどころとなるよう、みんなで努力していきましょう。

(加藤 利秋)

**みんなの参加する『会報』**

点から線へと伸びていった『会報』の次の目標は、面を紡ぐこと。ここに企画されたのが『せいかつ短信』でした。



総会の出欠回答ハガキの下半分を通信欄として、生活の有様、趣味・旅・地域やボランティア活動等を書いていただき、了解を得て記事にしました。最初の53号(2001年)には117人の声が寄せられました。以後、毎年8月号に160人前後の声を掲載していますが、かつての職場や組合の元気な様子が分かり、好評だと聞いています。

『助産院バースあおば訪問記』40号(1998年)は、山川満利子さん・森川勝絵さん・中かよさん(三方とも元県立母子保健センター職員)の助産施設などの紹介です。母子保健センターの廃止により、困ったお母さんの願いにこたえてできた助産院でした。

この試みは今の『会員紹介』となり、取材や寄稿により引き続きかかっています。

入力では、文章を正確に、まちがわないようにと、神経を使いました。当初していたハガキをコピーしてからの入力をやめ、今ではパソコンで直接入力します。8月号に間に合わすには、相当のエネルギーを費やしました。でも、『せいかつ短信』を読む方がたの懐かしそうな、楽しそうな眼差しを思い浮かべつつ続いています。

## 経費の証し

ある時、「会報にかかる経費は幾らくらいか」と話が出て、当時財政担当だった鈴木三郎さんが試算したことがありました。送料込みで1部当たり300円程度、年4回刊で約1200円となり、「終身会費2万5000円を約20年で使い切る事になる」と、一同、大笑いしたことがありました。実態はどうなのでしょう。『会報』に係る経費を1988(昭和63)年と2008(平成20)年と比較してみます。

会員は857人が1337人に増加。「会報発行経費」も約63万円が約82万円と伸びています。会報1号あたりの経費は185円から153円に。送付は郵便から宅配に換え、郵送料の軽減になりました。

## 工夫の証し——宛名シール

かつての発送は、宛名は手書き、

『会報』は三つ折りで封筒に詰め郵便局に持っていきましました。部数が多くなってからは、台車で運びました。

私が事務局に入った頃、宛名書きはワープロの宛名シールに変わっていました。このシールは、『会報』



パソコンで宛名シール作成

を印刷する会社に発注していました。編集委員会では「パソコンを使っています。その結果、米山東伊さんが手を挙げて、自前のシール作りが始まりました。

## 「せいかつ短信」と

### 巻頭写真と



私は何年間か編集に携われて、感慨深い思いがします。

総会の出欠葉書に、多くの会員から「せいかつ短信」を寄せていただきました。それを活字にする作業を担当しました。「会員のその後の様子を知らることができる」と大変好評でした。なるべく原文のままにと思いましたが、文字が判読できない時もあり、

(雨宮 和雄)

こだま会にはまだパソコンがなかったもので、米山さんの自宅のものを使って会員台帳から住所を入力してもらったことにしました。この作業は将来的に会員台帳をデータベース化することを前提に考えました。

「こだま会20周年記念」にパソコンが備えられたのを機に、その後を受け持った秋中一允さんが、データベース化を成し遂げてくれました。現在、大変便利に使われています。

## 発送の証し

『会報』の発送は、役員一同、和気あいあいの共同作業です。県職労が本町4丁目にあった頃、事務所は狭くて一斉にはできませんでした。横浜県税事務所がある横浜合庁の6階に移った後は、幹事会のある日の午前中に発送作業、午後は幹事会が恒例になりました。会員の飛び入りボランティアの参加もあります。

『会報』と封筒や宛名シール、同

いろいろ苦労しました。

また、巻頭の写真に私の撮ったものが数回に掲載され、皆さんから温かいメッセージが届き、感激しました。もっと多数の方の写真を出してもらいたいです。

封する資料(総会出席ハガキ・署名の要請・署名用紙や封筒・行事案内のチラシ・配布依頼のチラシ等)を用意します。一同打ち揃って作業開始。封筒に宛名シールを貼る、『会報』や資料を入れる、送付を依頼している宅配「Kメール」のバーコード付きの宛名シールを貼る、封をして、50部づつ縛り送付数を確認。あとは業者の取りに来るのを待つばかりとなります。

『会報』をB5判からA4判に変えたことにより、三つ折り不要になり、そのまま封入できるので、とても便利になり、作業も早くなりました。また、封筒が大きくなったので、多彩なチラシなどを入れられます。しかし、宅配のバーコードつき宛名シールを貼る手間が増えました。

従来の発送依頼先も、郵便局から宅配業者に替えたことにより、1通の定型外料金140円が80円と安くなり、1300通の送料が7万8千円(60円×1300通)節約できて、財政面では大いに助かったわけですね。

## 編集委員会の証し

前述したように、名称は「広報渉外委員会」から「広報委員会」と変わり、昨年から「会報編集委員会」と改め、その性格がはっきりしました。

編集委員会は通常6〜8人で構成

され、幹事・事務局とそれ以外の協力する会員の参加もあります。それぞれ現役時代に養った特技を生かしての委員です。編集が得手、校正が上手、写真なら任せて、料理の話なら私にといろいろと豊かな委員たちです。編集会議は企画・編集・校正と、1号発行につき3回集まります。原則水曜日の10時30分から12時頃まで。会場は、みんなの便利を考え、JR横浜駅西口近くにあり、グループ活動をサポートする「かながわ県民センター」になりました。編集会議は、1枚のレジメと紙、鉛筆、頭脳が揃えば事務所でなくともでき、簡便に集まるにはうってつけです。

私が編集委員長を担当したのは記憶が定かではないのですが、33号(1995年)からで、77号(2007年)までで45回になります。80歳近くなり、後がどうなるかと考えていたところ、生方武羅夫代表が、『神奈川県職労新聞』などをパソコン編

集していた鳥海敏雄さんはどうでしょう」と言って下さった時は、ほんとうにほっとしたものでした。編集委員のアンテナに懸った情報を柱に企画し、編集までの間が勝負です。原稿依頼や原稿書き、誰に何を頼むか決めるのが大変でした。時間との駆けつこの勝負でした。

生方武羅夫代表の提案で開設。『会報』と『会報』の間を補う情報や身近な情報提供をと、青沼慶祐さんが立ち上げました。イベント情報や事務局の動き、写真も満載です。『会報』のバックナンバーのアップでは600ページを超える紙面をPDF化するために、10日ほどかかりました。

これからは、会員の便りや写真、身近な情報など、会員相互の交流が待たれます。



ホームページのトップページ

今後の証し

会員の皆様のご理解とご協力で100号に至ったことに感謝いたします。この間、会勢は1000人を超え、これからも会員同士の絆は深まっていかねばなりません。他の退職者会との連帯や、高齢者運動、「九条の会」の運動など、忘れてはなりません。暮らしを守り、平和をめざす仲間を紡ぎ合う情報を提供する『会報』、

パソコンで宛名シール作成 発送作業が改善

私が初めてこだま会の幹事になった時、『会報』の編集部員に入れてもらった。ここで編集のイロハを



教えてもらって感謝

ホームページの開設

世界はIT時代に突き進んでいきます。ホームページは2005年11月、

している。「会員が増え、宛名シールの作成依頼経費が重荷になってきているので、自前でラベル印刷をしたい」と編集長の木村武子さんが言い出し、私の仕事になった。

横須賀の田舎暮らしでも、ラベル印刷は簡単にできたが、宛名データ

の更新は、事務局にいる鈴木三郎さんから電話やFAXでもらっていたので一仕事だった。その後、事務所にパソコンが入り、ラベルづくりと宛名データ更新を秋中一允さんに引き継いでもらった。

(米山 東伊)

それぞれのアンテナを高く掲げて、みんなで参加する『会報』を作り続けていきたいものです。

(木村 武子)

\* \* \*

〈現在の編集委員紹介〉

虻川弘子／新井通子／飯塚武弘／木村武子／川瀬秀雄／鳥居伸太郎／鳥海敏雄 (敬称略)



「宛名」管理は 手書きから パソコンへ

小生がこだま会事務局にかかわったのは創立20周年の前頃で、当時の『会報』発送に必要な「宛名」は、米山東伊さんが自宅のパソコンで作った「宛名シール」が事務局に届けられていました。

こだま会創立20周年記念事業でパソコンを購入し、会員台帳は「手書き」からパソコン処理になりました。

米山さんから電子データを引き継ぎ、「宛名」シールの作成ではとても助かりました。

皆さん、転居の際は必ず事務局まで住所変更の連絡をして下さいね。

(秋中 一允)



-36-



昨年、68歳になってこだま会に入会しました。県職労の役員を辞めてから自治労連の研究機構に10年近く在籍し、自治体の民間化や

地方分権改革などの仕事に携わってききましたが、今年3月で卒業しました。よろしくお願ひします。

●「仮の町」構想を調査

さて、私も東日本大震災後、郡山や二本松、塩釜、石巻、仙台、会津若松、栄村(長野)を訪ね、実態を見てきました。現在は原発避難

者の福祉等の措置、「仮の町」構想について調査しています。

いま、原発避難者の9割以上は、住民票を移さず、元の町に帰れることを願って頑張っています。

福祉などのサービスは、原発避難者特例法による特例措置で避難先の自治体から受けています。実



▶当時のままの災害対策本部

## 原発被災自治体の避難地を訪ねて

角田 英昭さん

際には仮設住宅暮らしで介護度が高くなっても、どこも待機者が多く、ほとんど施設には入れません。保育所も敷地内の集会所を託児所的に使っているところもあります。

学校にも分散して通っています。最近では廃校を利用し町専用の小中学校ができていますが、場所が不便な



▶「富岡駅」津波で8mも流され視野をさえぎるものもなくなつて海がみえている

ためスクールバスを配置しています。●避難生活が長期化

政府が公表した福島県内11市町村の帰還予測によれば、現在避難指示を受けている約8万6千人のうち32%が5年後、18%が10年後も避難を継続すると見込んでいます。元の町に戻れない、避難生活が長期化す



▶富岡町役場がある敷地

ば、多くの人は元の町に戻ることを断念せざるを得なくなりました。

また、その間、福祉や教育の措置が避難者としていつまでも特例措置で受けることでもいいのか、そんな問題も突き付けられています。●行き場のない汚染土  
今年1月に警戒区域の富岡町をバ

スで視察しました。ツナギ仕様の防護服を着て、線量計を首から下げて歩き、被災地が未だ放射能で汚染されていることを身を持って体験しました。

車窓からは田畑に集められた、行き場のない汚染土を入れた黒いビニール袋があちこちに見えま

す。帰還の道筋はまだ遠いと実感しました。

●「町外コミュニティ」構想の前進へ

こうしたなか、双葉郡4町で「仮の町」構想が動き出しています。長期避難者の生活の拠り所となる街づくりですが、これは「自治体のなかに別の自治体の機能をつくる」ことであり、簡単ではありません。

自分たちの街に突然よその地域の方がまとまって住むと言うのは、市民感情や地域の実情からして違和感もあり、広大な土地の確保も大変です。いまは、「仮の町」と言う誤解が多いので、「町外コミュニティ」と呼んでいます。困難はあってもこの構想が少しでも前進できるように願っています。

予告!! 予告!! 予告!!

●俳句サークル「こだま句会」

月例会(毎月第2木曜日13時~)

6月13日 7月11日

ところ 県庁本庁舎6階会議室

指導 太田土男先生(俳人協会)

会費 800円

申込先 こだま会事務所045(212)3179

または井村友彦0463(81)4493

●薬膳料理

とき 7月中旬予定(11時~15時)

ところ 横浜市西区地区センター(予定)

会費 1800円

内容 夏を乗り切る薬膳料理

講師 亀井禎子会員

申込先 こだま会事務局045(212)3179

●囲碁同好会

月例会 毎月第1日曜日 12時~

場所 「囲碁サロン」JR藤沢駅南口そば

申込先 こだま会事務所045(212)3179



幕山公園の入口で



梅はまだ三分咲き

梅は咲いたか  
桜はまだかいな

こだま会テク・てくの会  
湯河原梅林・梅見散歩

こだま会の「湯河原梅林・梅見散歩」が3月1日に行われ、男性6人、女性4人が参加しました。

JR湯河原駅に午前10時集合。昭和一桁から二桁の面々が久しぶりにご対面。気分は上々。天候に恵まれましたが、乗り合いバスを降りて「幕山」に到着早々、「春一番」が吹き荒れました。

私を除く面々は、「こだま句会」の方々をはじめ、教養の塊のような人ばかり。「梅は咲いたか桜はまだかいな」の気分でしたが、

今年は寒暖の差が激しく、まだ三分咲き。一行は幕山を一巡して、一句浮かべる模様。

私が輩は、入り口のベンチにどかかと腰を下ろし、皆の帰りを待ちながら思案顔のところ、わが地元海老名の年金者組合の役員が一人、忽然と現れました。確か支部ニュースの2月号に、「毎年、幕山の梅見を楽しみにしている」との記事が掲載されていたことを、ふと思い出しました。

和気あいあいの昼食休憩を過ごし、一路、帰路のバスで湯河原駅に到着。駅近くのファミリールレストラで開かれた句会のお披露目に、小生も選者として加わり、一言二言三言四言のたまわった。結果は「春一番」を詠った句が好評を得ていました。

ここで解散。小生は小田原駅で下車し、カラオケを少々堪能して、帰宅の途につきました。(谷村 寛)

幕山をかけおりてくる春一番  
梅千本見下ろして喰う塩むすび 松尾佐知子  
田中 一男  
手の平に紅白の梅そつと載せ 柳瀬 節子  
春一番幕山の池ざわめきて 鳥海 敏雄

会員のひろば

健康と図書館と私  
宮手多助(藤沢市)

昨年8月15日号の「こだま会報」の「せ

いかつ短信」特集号4ページのなかに、梅宮敏光さん(藤沢市在住)が、週1回前後、運動を兼ねて図書館通いをしていく旨を書いておられます。同氏と私の住まいは50メートルも離れていません。

私は毎週金曜日、お婆さんたちの仲間に入り、専任のスポーツトレー



ナーの指導で「健康体操」というタイトルで、体力増進を目的に2時間ほど、図書館並びの武道館で全身を動かしています。

しかし、不勉強故に未だ図書館には足を踏み入れた経験はなく、劣等感さえ身に染みている気がします。

こだま王の助言をいただきたい次第です。身勝手をお赦してください。まもなく94歳。頭がぼけています。

こだま俳壇(4月)

馬鈴薯の種置く土のぬくさかな

鳥海 敏雄

賑わいの引けたる頃の八重桜

島田多嘉子

金雀枝に囲まれている家となり

高橋 和江

外輪山まだ眠りおり水芭蕉

小川 水草

囀りを枕に旅の朝寝かな

坂 守

鯉幟風の中を泳ぎ切る

松尾佐知子

春日浴び船ゆつたりと海原へ

白井保次郎

小雀が競い飛び出す春耕田

柳瀬 節子

庭に置く睡蓮鉢の花筏

三井 光子

櫻咲くエンディングノートでも書くか

田中 一男

柿若葉雀も走る屋根の上

中村 桂子

孫ら来て長寿の祝ひ桜鯛

石崎ひろ美

花一斉長寿を祝うこだま会

井村 友彦

姿見に服をあれこれ花見かな

鈴木志げ子

春の日や英語を習う孫の声

松本 正治

嵐去り流れのままに花筏

横川美代子

終わらないそのあとがある花吹雪

木村 武子

風光る拝啓長寿おめでとう

太田 士男

楽しい料理教室

一品で食卓がぐっと豊かに

「脂の乗った魚料理に挑戦しよう」と1月26日、横浜市南区にあるフォーラム南太田・生活工房で楽しい料理教室を開きました。参加者は5人。飯塚武弘さんの手ほどきで、一品作れば食卓がぐっと豊かになる、そんな楽しい料理教室でした。

◎鰻の南蛮漬け

鰻を三枚におろし、から揚げにする。醤油・酢・砂糖・水・鷹の爪を加熱し、スライスした玉ねぎを加え、鰻のから揚げにからめて南蛮漬け。◎たたきゴボウの胡麻和え



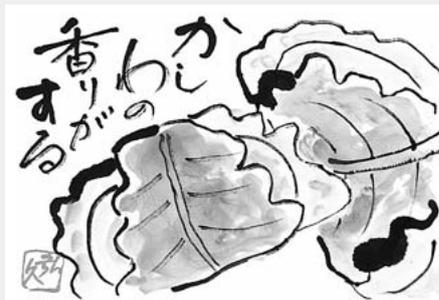
ので枚  
んき3す  
さどをろ  
塚ほジお  
飯手アに

おいしくできあがりました

⑤油切りをして①のタレに漬け込む。 ※漬けてすぐではなく半日くらい置くとおいしくなる。 ※小鰻の時は、エラと腹のワタを取り除いてまる揚げする。(鳥居伸太郎)

- ①なべに漬けダレを入れ、ひと煮立ちさせて冷まし、玉葱のスライスを加えておく。
- ②鰻は3枚におろし、腹骨を取り除き、食べやすい大きさに切る。
- ③②に片栗粉を全体に薄くまぶす。
- ④③を170度の油でカリッと揚げ

絵手紙



奥津弘久さんの作品

編集 後記

風薫る5月、いかがお過ごしですか▼本紙は今号で100号に到達。延べにすると800ページを優に超えます。前編集長の木村武子さんに、これを4ページで振り返っていたいただきました▼『会報』を通して、こだま会の運動が垣間見えるようです▼支えていただいた皆さんに感謝し、編集委員一同、アンテナを高くして、これからも会員を繋ぐ『会報』をめざします。(鳥海)

会報No.100  
2013.5.15

編集・発行  
神奈川県職労連退職者こだま会  
発行人 加瀬 文隆

〒231-8588  
横浜市中区日本大通り1  
県庁本庁舎6階

TEL 045-212-3179 (代表)  
FAX 045-212-3178 (代表)  
URL http://kodamakai.sakura.ne.jp/